

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>府民の期待に応える学校づくりの推進</p> <p>1 「個を活かし、公に生きる」人間の育成</p> <p>2 「グローバルに活躍する」人間の育成</p> <p>3 感じる力、考える力、行動する力、向上する力、関わる力（5K力）の育成</p> <p>4 「学力の向上」と「希望進路の実現」の達成</p>	<p>(成果)</p> <p>1 京都大学3名、大阪大学3名をはじめ、神戸大学4名、名古屋大学1名、京都工芸繊維大学5名、岡山大学6名、広島大学7名、京都府立大学4名など、国公立大学に91名が合格し、関関同立に現役で88名（のべ人数）が合格するなど、多数合格した。本校の進路指導の実績を積み上げることができた。（合格者数は現役生のみ）</p> <p>2 WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）事業の共同実施校の指定を受け、スマートAPの連続講義や海外インターンシップ事業等に積極的に参加し、イノベティブなグローバル人材育成の機会となった。</p> <p>3 「スーパーサイエンスネットワーク京都」校の取組として、昨年度から引き続き京都府北部の3校で地元地域において成果発表の機会を設けているが、南部地域の生徒も含め交流することもできた。</p> <p>4 部活動ではコロナ禍の影響が大きかったが、部活動加入率は86%と高く、近畿大会や全国大会で素晴らしい活躍をする生徒もあった。</p> <p>5 Webを活用して学校外の機関等と連携する実践を積み重ねることができた。</p> <p>6 進路指導では、授業を柱に面接指導、小論文指導、面談、にじゼミを含む講習等など、学年部と進路指導部、教科担当を中心に学校全体で取り組むことができた。</p> <p>(課題)</p> <p>1 新学習指導要領に対応し、「主体的・対話的で深い学び」の実現や観点別評価による生徒の主体的な学習を促進する取組を充実させる。</p> <p>2 前期選抜（普通科3.8倍、文理科学科1.2倍）、普通科の中期選抜では1.1倍であり、定員を上回る志願があった。さらに志願者が増えるよう本校の魅力をしっかり伝え、生徒募集体制を充実させる必要がある。</p> <p>3 ICT活用では、プロジェクタや1人1台学習用端末の効果的な活用を行う。</p> <p>4 教職員の働き方改革を進め、魅力ある職場で子どもたちに豊かな教育ができるように努める。</p> <p>5 防災訓練等を通じて、生徒及び教職員が防災意識を高めていけるよう安心・安全な学校づくりに努める。</p>	<p>1 学力の向上と希望進路の実現</p> <p>(1) 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行い、<u>確かな学力を育む</u>。</p> <p>(2) ICTを効果的に活用した授業改善を推進する。</p> <p>(3) 自ら目標を設定させ、主体的に学習に向かう姿勢を育むことにより、一人ひとりの希望進路実現を目指す。</p> <p>2 特色ある取組の充実</p> <p>(1) 普通科みらい考や文理科学科みらい学をより一層充実させ、SDGsの視点を踏まえて社会や地域の課題を自分事として捉え、<u>課題解決に向けて行動する姿勢を養う</u>。</p> <p>(2) WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）事業共同実施校として、海外の大学等との連携など国際理解教育の機会を充実させ、グローバル人材の育成を図る。</p> <p>(3) <u>医学進学・教員養成・国際理解・地域連携の各プログラム</u>をはじめとするキャリア教育を充実させ、<u>将来や社会への理解を深め、進路意識を高める</u>。</p> <p>3 豊かな心を育む教育の実現</p> <p>人権意識を高め、自他を敬愛する心やいのちを大切にすること、公共性や社会貢献の精神を育み、共生社会に必要な力を育成する。</p> <p>4 学校組織の改善と見直し</p> <p>教職員の資質・能力及び学校全体の教育力向上のため、中高各分掌・教科の在り方を含めた業務改善と効率化を図る。</p> <p>5 適正な学校運営と安心・安全な学校づくり</p> <p>全教職員が危機管理意識や防災意識を持ち、日々の点検に努め、適正な学校運営にあたる。学校防災や感染症対応など、生徒・保護者・教職員が共通認識をもつことにより、危機管理体制を確立し、安心・安全な学校を作る。</p> <p>6 家庭・地域・関係機関との連携の強化</p> <p>(1) 積極的に家庭連絡・家庭訪問を行うなど、家庭との連携を密にして信頼関係を築く。</p> <p>(2) 地域連携やボランティア活動等を通して、<u>地域や社会の一員であることをことを自覚させ、使命感を持たせる</u>。</p> <p>7 中高一貫教育の推進</p> <p>中高6年間を見据えて資質・能力の育成するとともに、中高一貫教育校のよさを活かして全体の活性化を図る。</p>

評価領域	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題																
組織・運営	<p>新しい時代に必要となる資質、能力の育成のための「主体的・対話的で深い学び」の実現やBYOD等のICT有効活用を学校全体で組織的に取り組む。</p>	<p>みらい考やみらい学をはじめとする教育活動全般を通して「主体的・対話的で深い学び」を実現するとともに、ICTを効果的に活用した授業改善を進める。</p> <p>[主体的・対話的で深い学びを実践したという割合]</p> <table border="1" data-bbox="831 464 1395 536"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>70%以上</td><td>69～50%</td><td>49～25%</td><td>24%以下</td></tr> </table> <p>-----</p> <p>[ICTを授業等で積極的に活用したという割合]</p> <table border="1" data-bbox="831 608 1395 679"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>70%以上</td><td>69～50%</td><td>49～25%</td><td>24%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	70%以上	69～50%	49～25%	24%以下	A	B	C	D	70%以上	69～50%	49～25%	24%以下	B B	<p>・主体的・対話的で深い学びをしたという割合は67%であった。学びを更に深化させるために校内研修等とおして実践事例の共有を行った。今後も継続して取り組んで行く必要がある。</p> <p>・教職員対象内部評価アンケートでは、「ICTを授業等で積極的に活用した」の割合が65%と昨年と同程度であった。1年生のBYOがスタートしたことを考えれば、更なる活用充実が必要である。</p> <p>・「自己の資質・能力が向上したと実感した」割合が83%と昨年から10%以上増加した。しかし、「分掌間や教科内の連携」についての割合は66%で昨年と同程度であり、学校評価アンケートでの「高校と附属中との協同活動」についての生徒・保護者のプラス評価が50%程度であったことから、附属中と高校の連携を含めた校内の連携をより推進していくことが、教育活動の充実につながっていくと考えられる。</p> <p>・学校評価アンケートの「魅力的な学校」に関する生徒・保護者からのプラス評価が80%以上であるにもかかわらず、ホームページ等広報の充実については生徒・保護者ともに75%以下の数値であることから、学校が実践している取組について効果的に情報発信していくことがより重要であると考えられる。</p>
	A	B	C	D																
	70%以上	69～50%	49～25%	24%以下																
A	B	C	D																	
70%以上	69～50%	49～25%	24%以下																	
<p>生徒の確かな学力を育むための教職員の資質・能力の向上と、学校全体の教育力向上のために、分掌や教科、個人が互いに連携を密にし、教育活動に取り組む。</p>	<p>学習や生徒指導、学校運営等において、附属中を含む各教科や各分掌、個人間で連携を深め、教育活動及び業務の改善化を図り、個々の教職員の資質と能力の向上に繋げる。</p> <p>[自己の資質・能力が向上したと実感した割合]</p> <table border="1" data-bbox="831 890 1395 962"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>70%以上</td><td>69～50%</td><td>49～25%</td><td>24%以下</td></tr> </table> <p>-----</p> <p>[分掌間や教科内の連携が充分行えたと実感した割合]</p> <table border="1" data-bbox="831 1034 1395 1106"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>70%以上</td><td>69～50%</td><td>49～25%</td><td>24%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	70%以上	69～50%	49～25%	24%以下	A	B	C	D	70%以上	69～50%	49～25%	24%以下	A B		
A	B	C	D																	
70%以上	69～50%	49～25%	24%以下																	
A	B	C	D																	
70%以上	69～50%	49～25%	24%以下																	
<p>学校の魅力を高め、積極的・効果的に発信する。</p>	<p>授業や課外活動、特色ある取組を更に充実させ生徒の学びを深め、その学びの魅力や特色を学校説明会や広報紙、HPにより積極的に発信する。</p> <p>[学校評価アンケート『本校の取組が充分に発信されている』の評価のプラス評価平均]</p> <table border="1" data-bbox="831 1329 1395 1401"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>80%以上</td><td>79～50%</td><td>49～30%</td><td>29%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～50%	49～30%	29%以下	B										
A	B	C	D																	
80%以上	79～50%	49～30%	29%以下																	

<p>教務部</p>	<p>学力向上に向け、授業改善と主体的な学習態度の育成に努める。</p>	<p>学力向上のため学年部と連携し、ガイダンスを積極的に実施する。指導実践を共有し、生徒の学習意欲を高める指導の工夫改善につなげる。 [授業アンケート中の質問『学習活動に意欲的に取り組んでいる』の生徒の自己評価の平均]</p> <table border="1" data-bbox="831 344 1395 421"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>3.6以上</td> <td>3.5～3.0</td> <td>2.9～2.5</td> <td>2.4以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	3.6以上	3.5～3.0	2.9～2.5	2.4以下	<p>B</p>	<p>学力向上のため、ガイダンスを1年で2回、2年で2回、3年で1回実施したほか、教務部通信で生徒に学力向上等に関する喚起を行った。新課程の実施とICT活用推進のため、教職員に8月と1月の研修会、4月、5月、10月端末活用ガイダンスを実施した。教員タブレットの普及により、教員の使用し、ICTを活用した新しい授業形態の研究と授業改善の意識が向上したと感じる。</p>
A	B	C	D									
3.6以上	3.5～3.0	2.9～2.5	2.4以下									
	<p>今年度からの新教育課程スタートに向けて、評価の在り方、ICT活用に向けての研修を進める。</p>	<p>学習指導の改善が生徒の学習意欲・学力向上に繋がるよう、校内での研修の機会を増やし、各教科間や分掌、学校全体で教育力向上を目指す。 [学校評価アンケート（生徒）の学力向上に関する取組の上位の割合]</p> <table border="1" data-bbox="831 671 1395 748"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>98%以上</td> <td>96%以上</td> <td>94%以上</td> <td>93%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	98%以上	96%以上	94%以上	93%以下	<p>C</p>	<p>授業アンケート中の、質問『学習活動に意欲的に取り組んでいる』生徒の自己評価は全体で3.4/4であった。 (昨年3.4、一昨年3.3) 新課程1年目となる、高1の観点別評価の方法と検証、Classiの活用を含む1人1台端末の活用について、引き続き、各分掌、学年、教科、学校全体で共有し、練磨したい。</p>
A	B	C	D									
98%以上	96%以上	94%以上	93%以下									
	<p>個に応じた指導を大切にし、単位不認定をなくす。</p>	<p>丁寧な学習方法の指導や個に応じた指導を進め、成績不振による単位不認定者をなくす。長期休業中の補充授業をより効果的な取組に改善する。 [成績不良による単位不認定者数]</p> <table border="1" data-bbox="831 954 1395 1031"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>1～2人</td> <td>3～4人</td> <td>5人以上</td> </tr> </table>	A	B	C	D	0人	1～2人	3～4人	5人以上	<p>A</p>	<p>昨年度から継続して補充考査のありかた改善に取組、1学期補充考査の合格率は70%（昨年度71%）、2学期の補充考査の合格率は81%（同88%）であった。 生徒の学力向上と希望進路実現、教員の業務改善をされに進め、新課程2年目に向けて引き続き取り組みたい。</p>
A	B	C	D									
0人	1～2人	3～4人	5人以上									
<p>生徒指導部</p>	<p>安定した学校生活が進路実現につながるという観点に立ち、特に時間管理(遅刻指導)と社会的マナー意識(身だしなみ等)の向上を図る。</p>	<p>・【遅刻指導】学年団と連携しながら多角的に指導することで、余裕をもった登校を促す。 ・【あいさつ指導】全教職員で協力し、身だしなみを含め、日頃のあいさつが積極的にできる生徒に育てる。 [学校評価アンケート『規範意識・挨拶・マナーは向上しているか』における『よくあてはまる・あてはまる』の生徒・保護者の平均値]</p>	<p>B C</p>	<p>参考資料（数値は%） 規範意識等：生徒85.5/保護者85.4 通学マナー：生徒68.1/保護者73.4 部活動：生徒91.0/保護者81.1 ボランティア：生徒66.4/保護者43.3 学校行事：生徒86.4/保護者80.8 (部活・ボラ・行事の平均74.8) 遅刻指導や規範意識の向上は、昨年</p>								

		<table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>90%以上</td><td>89～70%</td><td>69～50%</td><td>49%以下</td></tr> </table> <p>・携帯情報端末、特にSNS利用に関する啓発活動を積極的に行う。</p> <p>[生徒によるセルフチェックの回数]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>6回以上</td><td>5回</td><td>4回</td><td>3回以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	49%以下	A	B	C	D	6回以上	5回	4回	3回以下	D		<p>度に比べて改善できた。SNS利用に関する啓発活動はほとんどできていない。</p> <p>交通マナーの向上に関しては、例年の活動に加え、11月は一ヶ月にわたって下校指導を行った。また、生徒らも探究活動の「みらい考」などで交通マナーの向上の取組もあり、昨年度より改善された。また、(自損を除く)交通事故も減少した(昨年17件・今年11件)。</p> <p>生徒会活動としては、今年度は学校祭がコロナ禍前に近い形で、かつ感染症対策をしながら開催することができた。ボランティアに関しては、大きな活動の場である福知山マラソンが定期考査の日程と重なり、ボランティア参加を希望していた生徒が参加できない状態があった。</p> <p>学校行事に関して、昨年度から球技大会を学年別の形式で行った。しかし、準備の段階でとても時間と手間が必要となっている。生徒の自主性を培う場としては良いが、それぞれの日程や行事の数などを考えると、次年度からは学年と連携して実施方法や日程などを調整したい。</p>
A	B	C	D																		
90%以上	89～70%	69～50%	49%以下																		
A	B	C	D																		
6回以上	5回	4回	3回以下																		
	<p>学校生活が安心、安全なものとなるよう、特に交通安全について意識の向上を図る。</p>	<p>・交通事故を防止し、交通マナーの向上を進める啓発活動を継続的に行う。特に登校時の松縄手交差点での指導と下校時の正門・福知山重工付近での指導を行う。</p> <p>[学校評価アンケート『通学マナーはよいか』における生徒・保護者の平均値]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>80%以上</td><td>79～60%</td><td>59～50%</td><td>49%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～50%	49%以下	B										
A	B	C	D																		
80%以上	79～60%	59～50%	49%以下																		
	<p>「5K力」の育成のため、特別活動(生徒会活動・部活動・ボランティア活動)の活性化を図り、将来、地域社会を支える自覚と創造力を兼ね備えた使命感を持たせる。</p>	<p>・生徒会執行部の活動を活発化させ、生徒が中心となる生徒会活動(特に福高祭)を充実させる。</p> <p>・コロナ禍でできることを模索し、なるべく多くの生徒がボランティアに参加できる機会を増やす。</p> <p>[学校評価アンケート『部活動・ボランティア・学校行事の充実度』における生徒・保護者の平均値]</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>90%以上</td><td>89～70%</td><td>69～50%</td><td>49%以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	49%以下	B										
A	B	C	D																		
90%以上	89～70%	69～50%	49%以下																		
進路指導部	<p>生徒が希望進路の実現に向けて前向きな姿勢で歩み、自ら考え、行動する力を育てられるような進路指導を行う。</p>	<p>第3学年部や教科担当者との連携を密にして生徒の希望進路実現を図る。</p> <p>4月実施の進路希望調査で国公立大学を志望した生徒の合格率</p> <table border="1"> <tr><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> <tr><td>65%以上</td><td>64%以上55% 未満</td><td>40%以上54% %</td><td>40%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	65%以上	64%以上55% 未満	40%以上54% %	40%未満	B		<p>第3学年部と密に連携をとり、3年生の教科担当者だけでなく、小論文・面接指導など学校全体で生徒一人一人に対応した進路指導を進めることができた。</p>								
A	B	C	D																		
65%以上	64%以上55% 未満	40%以上54% %	40%未満																		

	<p>1、2年生の進路意識を向上させる。</p>	<p>夢を抱いて頑張る生徒を育成する。 [11月実施の1・2年生進路希望調査で、未定と回答する生徒の割合]</p> <table border="1" data-bbox="801 240 1364 349"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～3%未満</td> <td>3%以上 5%未満</td> <td>5%以上 7%未満</td> <td>7%以上</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	0～3%未満	3%以上 5%未満	5%以上 7%未満	7%以上	B	<p>1・2年生の希望進路未定の生徒は4月に48名(20.3%)いたが、11月実施では11名(4.7%)と減少した。 今後は主体的に進路選択ができるように自己と向き合えるきっかけづくりが必要である。</p>
A	B	C	D									
0～3%未満	3%以上 5%未満	5%以上 7%未満	7%以上									
保健部	<p>生徒が健やかで安心・安全な学校生活を送ることができるよう、自らの健康や安全に対する意識の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が健康で安全な学校生活を送ることができるよう、病気や怪我の予防、また、授業・部活動・登下校時の災害防止に努める。定期的に「ほけんだより」、「安全だより」を発行し、健康、安全に関する注意喚起を行う。 ・新型コロナウイルス等感染症の拡大防止のため、啓発活動、健康観察、体調不良者への対応等に全校体制で取り組むことができるよう、情報提供や提案を行う。 ・健康診断結果に基づく要治療・再検生徒の受診率の向上を目指す。 <p>[歯科 要治療生徒の受診率]</p> <table border="1" data-bbox="801 858 1352 930"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20%以上</td> <td>19～15%</td> <td>14～10%</td> <td>10%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	20%以上	19～15%	14～10%	10%未満	A	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断や研修旅行等の学校行事に関する情報や注意、また新型コロナウイルス感染症対策をテーマとしながら、時機に応じた「ほけんだより」「安全だより」を発行した。発行回数は、「ほけんだより」16号、「安全だより」3号（1月現在）である。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、毎朝の検温表のチェックを、さくら連絡網での入力に移行し、負担軽減を図りながら生徒の健康状態の把握に努めた。引き続き効果的な、感染症対策に取り組んでいきたい。 ・歯科受診率の向上のため、複数回の連絡を行った結果、33.8パーセントに達している（1月現在）。 ・トイレの改修にかかり、清掃や使用方法などの周知に努めた。 ・保健委員は、集積所当番の他、清掃状況のチェック、事故災害件数のチェック、また教室のCO2濃度の測定やガスファンヒーター導入に係る室温チェック、アルコール・ハンドソープの詰め替え等、年間を通じて意欲的に活動した。
A	B	C	D									
20%以上	19～15%	14～10%	10%未満									
	<p>環境教育の充実を図り、校内美化に対する意識を高め、学習環境作りに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教室、トイレ、廊下等、校内の清掃、また感染症予防のための消毒を確実にを行い、校内の衛生管理に努める。 ・保健委員による教室の衛生管理、清掃点検、安全点検等の活動を定期的に行う。 <p>[保健委員の年間活動回数]</p> <table border="1" data-bbox="801 1254 1364 1326"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20回以上</td> <td>19～15回</td> <td>14～10回</td> <td>10回未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	20回以上	19～15回	14～10回	10回未満	A	
A	B	C	D									
20回以上	19～15回	14～10回	10回未満									

人権教育部	<p>様々な人権問題についての正しい理解や認識を深め、人権尊重の実践的態度を養う。</p>	<p>学年部や他分掌との連携を深め、人権学習の教材や指導方法の改善に努める。</p> <p>[学校評価アンケート 生徒全員の人権学習に対するプラス評価平均]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>75%以上</td> <td>75%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	75%以上	75%未満	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートに対する高校生のプラス評価は、90%以上であった。 ・人権学習は、学期に1回行い、人権講演会は、各学年1回ずつ体育館で行った。「とてもよかった」、「よかった」の肯定的なアンケート結果は1年75.5% 2年90.7% 3年92.7%であった。 ・教職員人権研修については、人権講演会に参加することや、放課後視聴覚教室で講師の教員向けの講演会を実施するなど充実することができた。 ・日本学習支援機構等の奨学金の手続きを行った。 ・課題としては、保護者の方への情報共有を工夫しながら進めていく必要がある。 							
	A	B	C	D															
	90%以上	80%以上	75%以上	75%未満															
<p>各種援護制度の周知と活用を図り、就・修学の保障に努める。</p>	<p>援護制度について、広報を充実させる。</p> <p>[プリント、メール及びホームページの活用]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8回以上</td> <td>7～5回</td> <td>4～2回</td> <td>1回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	8回以上	7～5回	4～2回	1回以下	C									
A	B	C	D																
8回以上	7～5回	4～2回	1回以下																
<p>教職員の人権意識の高揚を図り、指導力の向上に努める。</p>	<p>教職員人権研修を充実させ、教職員の指導力の向上を図る。</p> <p>[教職員人権研修の実施]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3回</td> <td>2回</td> <td>1回</td> <td>0回</td> </tr> </tbody> </table> <p>-----</p> <p>[人権教育推進会議及び合同部会の実施]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9回以上</td> <td>8～6回</td> <td>5～3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	3回	2回	1回	0回	A	B	C	D	9回以上	8～6回	5～3回	2回以下	A C	B
A	B	C	D																
3回	2回	1回	0回																
A	B	C	D																
9回以上	8～6回	5～3回	2回以下																
総務企画部	<p>本校の特色ある取組や、生徒の充実した学校生活の様子を地域の方や中学生、その保護者等に正しく知ってもらえるよう広報誌(福高だより、学校案内)やホームページによる情報発信、各種説明会を工夫し、発展させる。また本校生徒、その保護者に対しても同様に本校の取組等をこれまで以上に知ってもらうよう広報誌(福高タイムズ)の配信、ホームページの更新等に努める。</p>	<p>在校生とその保護者に本校の活動の様子をよりよく知ってもらうために、分掌内外の連携を強化し、ホームページや福高タイムズ等を媒体に積極的に情報発信することで広報に関する満足度を高める。</p> <p>[学校評価アンケート(保護者用)『ホームページ等広報』のプラス評価平均]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>60%以上</td> <td>60%未満</td> </tr> </tbody> </table> <p>-----</p> <p>ホームページや学校案内、広報誌(福高だより)、中学生対象の説明会等の広報に関わる様々な取組の内容を充実させることで、本校の魅力を正しく</p>	A	B	C	D	80%以上	70%以上	60%以上	60%未満	B C	B B	<p>昨年よりもプラス評価の割合が上昇したことから一定の評価は得られたと考えられる。ホームページの更新内容に偏りがあるなど、本校の教育活動をより広く発信することが課題である。</p> <p>ホームページを携帯端末からもより見やすく閲覧することができるようにリニューアルすることができた。</p> <p>夏と秋の2回学校説明会を行い、保護者・生徒対象にとったアンケート結果からもそれぞれ高評価を得ることができた。しかし、選抜の志願者数については厳しい状況が続いており、本校</p>						
A	B	C	D																
80%以上	70%以上	60%以上	60%未満																

		<p>知ってもらうよう努め、本校全体の志願者の増加を目指す。</p> <p>[前期選抜(文理科学科)の志願者数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>50人以上</td> <td>45人以上</td> <td>40人以上</td> <td>40人未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	50人以上	45人以上	40人以上	40人未満	C		<p>の魅力発信に関わって、見る側・参加する側の視点に立った工夫が更に求められる。</p> <p>定期的に部会を実施し、普段から分掌内でコミュニケーションを密にとることで連携をしながら、仕事を進めることができたと感じている。今後もこの体制を維持し、新しい発想も取り入れながら学校内での役割を果たしていきたい。</p>
A	B	C	D										
50人以上	45人以上	40人以上	40人未満										
	<p>分掌内外の連携を密にし、高校と附属中学校の広報や生徒募集を有機的に機能させる。</p>	<p>部会を定期的に開催し、日常的に部内の意思疎通を図ることで、部全体が共通認識を持ち、協力体制のもと業務に取り組んでいけるよう努める。</p> <p>[分掌会議の実施回数(作業を除く)]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>40回以上</td> <td>35回以上</td> <td>30回以上</td> <td>30回未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	40回以上	35回以上	30回以上	30回未満	B		
A	B	C	D										
40回以上	35回以上	30回以上	30回未満										
みらい探究部	<p>普通科の総合的な探究の時間「みらい考Ⅱ」について、学習計画を立て、PDC Aサイクルを回してスタイルを完成させるとともに、「みらい考」の深化、ⅠⅡの繋がりを持たせる。</p>	<p>普通科の探究的な学習の時間の内容を計画・実施し、課題設定力・課題解決力・表現力の育成を組織的・系統的に実施する。</p> <p>【実社会や実生活と自己との関わりを通じて課題を見いだすことが出来た感じた人数の割合】</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>85%以上</td> <td>80%以上</td> <td>80%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	85%以上	80%以上	80%未満	A	A	<p>・みらい考において、進路探究ではキャリア学習を活用した探究型学習を行った。課題探究では「地域活性化」・「福高活性化」をキーワードとして課題解決に向けた探究活動を行った。みらい考Ⅰでは解決のための提案を行ったが、みらい考Ⅱでは、提案を元により具体化して課題解決実践に繋げることができた。</p> <p>・みらい学Ⅰにおいて、SDGsの視点を踏まえた地域課題研究に取り組み、市役所や地域の方々と積極的に繋がり、実態を踏まえた研究を進めることができた。また、みらい学Ⅱにおいて、これまでに学んだ研究手法を生かし、グループでの協働をとおして研究を進め、研究発表会を実施し、論文集を作成した。問いの深化、データの扱い方や分析方法等をより高度にしていきたい。</p> <p>・WWL事業の3年目として、高校生サミットや海外インターンシップなどの取組に参加し、他校と活発に交流することができた。スマートAPやきょうとAPPにも積極的に参加し、主体的に学ぶ楽しさを感じることができた。</p>
	A	B	C	D									
	90%以上	85%以上	80%以上	80%未満									
<p>文理科学科の総合的な探究の時間「みらい学Ⅰ」「みらい学Ⅱ」を通して「課題研究リテラシー」の向上を図るとともに、研究内容の充実・深化をはかり、外部発表や課題解決の実現に向けた『行動する力』を重視する。</p>	<p>課題研究に必要なスキル(研究の進め方や発表の仕方、評価の方法等)を身に付けるプログラムを工夫・改善する。さらにできるだけ多くの外部発表を行い、研究成果を外部に発信する。</p> <p>【外部発表、実現に向けて行動した数】</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>5つ以上</td> <td>3つ以上</td> <td>1つ以上</td> <td>0</td> </tr> </table>	A	B	C	D	5つ以上	3つ以上	1つ以上	0	B	B		
A	B	C	D										
5つ以上	3つ以上	1つ以上	0										
<p>京都WWLの共同実施校(3年目)として、イノベティブなグローバル人材の育成に関する取組を積極的に行い、生徒が主体的に学ぼうとする意欲や、学ぶ楽しさを味わわせる。</p>	<p>ワールド・ワイド・ラーニング コンソーシアム構築支援事業(WWL)の取組について、総合的な探究の時間を軸に教科や分掌と連携して計画・実施し、生徒が国際社会で生き抜く力を育てる。</p> <p>【参加生徒の満足度】</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>80%以上</td> <td>70%以上</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	80%以上	70%以上	70%未満	A	A		
A	B	C	D										
90%以上	80%以上	70%以上	70%未満										

図書 視聴覚部	読書活動を推進し、5つの力を基盤とした「知識に裏付けされた判断力」「豊かな表現力」「感性を磨く力」を育成する。	学年、分掌、教科と連携し、図書館活用の機会を増やすとともに、活用内容の充実を図る。 〔授業での図書館活用回数（みらい学等を除く）〕 <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>80回以上</td><td>70～79回</td><td>60～69回</td><td>59回以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	80回以上	70～79回	60～69回	59回以下	D	<ul style="list-style-type: none"> ・みらい学やみらい考では今年度も図書館が積極的に活用された。探究活動以外では2つの教科による図書館活用があった。学校でのICT使用の現状と課題をふまえ、図書館で今後どのようにICTを活用していくことができるか、検討していきたい。 〔探究活動以外での図書館活用回数30回〕 ・福高タイムでの朝読書についてはある程度定着し、今後も生徒の読書機会を確保し、読書活動を推進する手段の一つとしていきたい。 ・「さくら連絡網」は、学校全体での活用がさらに進み、状況に応じた情報発信を行うことができた。しかし情報量が多くなりすぎると内容確認が後回しになるという懸念もあり、活用方法について検討していく必要がある。 ・PTA活動については、徐々に制限が緩和されているとはいえ、保護者の方に直接参加していただく機会は少なかった。そのような中ではあったが、本部役員の方を中心にPTA活動を円滑に運営していただくことができた。 〔PTA活動に対するプラス評価73.5%〕
	A	B	C	D								
80回以上	70～79回	60～69回	59回以下									
PTA活動を推進し、保護者や府民の学校理解につなげる。	PTA活動が円滑に運営されるよう、事務局としての役割を果たす。学校行事やPTA活動について「お知らせメール（さくら連絡網）」を活用した、継続的かつ安定的な情報発信を行うとともに、機能充実に努める。 〔保護者対象学校評価アンケートのPTA活動に対するプラス評価〕 <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>80%以上</td><td>70～79%</td><td>60～69%</td><td>60%未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70～79%	60～69%	60%未満	B		
A	B	C	D									
80%以上	70～79%	60～69%	60%未満									
第1学年部	思考力・判断力・表現力等の育成に向けて、基礎的な学力を身につけさせる（感じる力、考える力）	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃や整理整頓を心がけ、学習環境を整えさせつつ、家庭学習の習慣を早期に確立させる。 ・授業を大切にし、予習と復習のサイクルを確立させる。また、苦手教科の克服に取り組ませる。 〔1年生全体の評定平均値の平均〕 <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>4.2以上</td><td>4.1～3.9</td><td>3.8～3.5</td><td>3.4以下</td></tr> </table> ※評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。	A	B	C	D	4.2以上	4.1～3.9	3.8～3.5	3.4以下	B	<ul style="list-style-type: none"> ・classiの学習時間調査等を利用して、学習時間や学習のバランスを点検し、学習習慣の定着を図った。予習と復習のサイクルを確立できた生徒は49.2%、苦手科目の克服に取り組んでいる生徒は75.4%である。考査前とそれ以外の期間の学習時間の差が大きい生徒がいることが課題である。評定平均値の平均は3.96（1学期普通科3.82、文理科4.35。2学期普通科3.79、文理科4.21）であった。 ・模試の返却時に面談を行い、個別に次回の到達度目標を設定し、学習に対
	A	B	C	D								
4.2以上	4.1～3.9	3.8～3.5	3.4以下									
自己理解を深め、自らの目標を立て、向上心を持って行動させる（行動する力、向上する力）	<ul style="list-style-type: none"> ・読書習慣を身につけさせる。 ・個人面談を重視し、進路目標を明確にさせる。 ・部活動への積極的な参加を促す。 											

		<p>〔第2回進路希望調査での進路未定者数〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>1～6人</td> <td>7～12人</td> <td>13人以上</td> </tr> </table> <p>※評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。</p>	A	B	C	D	0人	1～6人	7～12人	13人以上	B	B	<p>するモチベーションを高めた。また、恒常的に生徒と話す機会を多く取り、進路目標の明確化を促すとともに、生徒の不安や悩みを早期に察知するよう努めた。進路希望調査での進路未定者数は4月時点で31名（13%）であったが、12月時点では4名（1.7%）と大きく減少した。</p> <p>・学年行事やクラスでの活動において、生徒が主体となって企画・運営するなど、各委員が各々の役割を果たした。文化祭では、生徒一人ひとりが自分の役割を見つけながら互いに協力して展示を作成した。また、これらの活動を通して、クラスへの帰属意識が向上した。学校生活の様々な場面で、他者と協働して取り組んだ生徒の割合は、87.9%であるが、そのうち自己の役割を見つけることができた生徒は、49.2%にとどまる。</p>
A	B	C	D										
0人	1～6人	7～12人	13人以上										
	<p>他人を思いやり、協働する態度を育てる（関わる力）</p>	<p>・あいさつを奨励し、日常的なマナーを身につけさせる。</p> <p>・学校行事や、クラスでの活動に積極的に参加させ、集団の中での自分の役割を見つけさせる。</p> <p>・常に相手の気持ちを考えて、他者に優しい行動を取らせる。</p> <p>〔学校生活の様々な場面で、他者と協働して取り組んだ生徒の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100%～90%</td> <td>89%～70%</td> <td>69%～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table> <p>※評価の際は、数値目標だけでなく、生徒の様子を観察して、総合的に評価する。</p>	A	B	C	D	100%～90%	89%～70%	69%～50%	49%以下	B		
A	B	C	D										
100%～90%	89%～70%	69%～50%	49%以下										
第2学年部	<p>基本的な生活習慣を確立し、日々努力できる自己を形成する</p>	<p>・8:30の始業時には自席に着席できるようにする。</p> <p>〔学期ごとの遅刻指導7回以上の人数〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>1～5人</td> <td>6～10人</td> <td>11人以上</td> </tr> </table>	A	B	C	D	0人	1～5人	6～10人	11人以上	D		<p>・始業時の自席着席について、不特定の生徒ではなく、限られた生徒ではあるが回数を重ねてしまい、延べ人数としては11人を超過してしまった。</p> <p>・学校行事への参加について、「できていた」と考えている生徒は60%を超え、「自分なりにできた」と回答した32.9%の生徒を含めると9割を超える生徒が主体的に行動できたと感じている。</p>
A	B	C	D										
0人	1～5人	6～10人	11人以上										
	<p>部活動、生徒会活動および学校行事において中心的な役割を果たし、主体的に行動できる生徒を育成する</p>	<p>学校行事、クラス活動、部活動への積極的な参加を促し、集団の中での自分の役割を理解するとともに、常に相手の気持ちを考えた行動がとれるようになる。</p> <p>〔学校行事やクラスの取組に協力的に参加したと思った生徒の割合〕</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>100～90%</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	100～90%	89～70%	69～50%	49%以下	A	C	<p>・個人面談を各担任が積極的におこなった。12月の進路希望調査における「未定」の生徒は7名となり、4月当初の17名から減少した。3年生に向けて進路の具体的なイメージを涵養していきたい。</p>
A	B	C	D										
100～90%	89～70%	69～50%	49%以下										
	<p>個人面談および進路探究を通じて自己理解を深め、希望進路実現に</p>	<p>・個人面談、進路検討会を充実させ、進路意識の高揚をはかる。</p>											

	向けた環境、雰囲気づくりを行う	<p>[第2回進路希望調査-11月での進路未定者数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>0人</td> <td>1～3人</td> <td>4～7人</td> <td>8人以上</td> </tr> </table>	A	B	C	D	0人	1～3人	4～7人	8人以上	C									
A	B	C	D																	
0人	1～3人	4～7人	8人以上																	
第3学年部	<p>希望進路の実現に向けて生徒一人一人が前向きな姿勢で歩み、自ら考え、行動する力を育てられるような進路指導を行う。</p>	<p>自己の課題を認識させ、短期目標を設定させるなどして、苦手科目の克服に取り組ませる。 模擬試験での得点向上を目指した学習計画を立てさせ、入試に向けての意識を高めさせる。 [学年全体の6月進研共通テスト模試平均偏差値(英・数・国)]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>58.0以上</td> <td>55.0以上</td> <td>52.0以上</td> <td>52.0未満</td> </tr> </table> <p>[6月進研共通テスト模試A3以上の人数の平均(英・数・国)]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>130人以上</td> <td>100人以上</td> <td>70人以上</td> <td>70人未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	58.0以上	55.0以上	52.0以上	52.0未満	A	B	C	D	130人以上	100人以上	70人以上	70人未満	B	<p>・6月進研共通テスト模試平均偏差値(英数国)は55.0であった。また、(英数国)平均が国公立・中堅私立合格レベル相当のA3以上の人数は102人であり、B評価の目標を超えた。さらに難関大合格の目安であるS3以上の人数は42人と過去5年間で最も多く、上位層の生徒たちは健闘したといえる。 ・二者面談および三者面談を必要に応じて頻繁に実施した。その結果、早期の段階で進路希望未定者がゼロとなり個に応じた具体的な目標設定ができた。 ・進路希望調査(4月)で国公立大を志望していた生徒(149名)の合格者は3月24日現在で94名(のべ97名)の63.1%であったためB評価とした。 ・コロナ禍ではあったが、部活動や学校行事が従来に近い状態で実施できたこともあり、学校評価アンケートで[「部活動」および「学校行事」でプラス評価の生徒割合の平均]が90.4%の回答を得た。このことから生徒たちは充実した学校生活であったと感じていると思われる。 ・「福高への誇り」の項目でプラス評価の生徒の割合は、86.2%であり、目標は達成できた。多くの生徒が福高へ入学後、学習活動、課外活動等あらゆる面で充実しており、満足して卒業を迎えることができたと感じている。</p>
		A	B	C	D															
	58.0以上	55.0以上	52.0以上	52.0未満																
A	B	C	D																	
130人以上	100人以上	70人以上	70人未満																	
<p>生徒との面談に重点を置き、関係分掌や教科担当者との連携を密にして、生徒の希望進路実現を図る。 [進路希望調査(4月)で国公立大を志望した生徒の国公立大合格率]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>65%以上</td> <td>64～55%</td> <td>54～40%</td> <td>40%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	65%以上	64～55%	54～40%	40%未満	B											
A	B	C	D																	
65%以上	64～55%	54～40%	40%未満																	
<p>最高学年としての自覚を持たせ、周囲との関わりを大切にしながらダーシップが発揮できる生徒を育てる。</p>	<p>部活動や学校行事等に主体的かつ積極的に関わらせ、福知山高校全体を牽引させる。 [学校評価アンケートで「部活動」および「学校行事」でプラス評価の生徒割合の平均]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>85%以上</td> <td>84～70%</td> <td>69～60%</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	85%以上	84～70%	69～60%	60%未満	A										
A	B	C	D																	
85%以上	84～70%	69～60%	60%未満																	
		<p>福知山高校への誇りを感じている生徒を育てる。 [学校評価アンケートで「福高への誇り」の項目がプラス評価の生徒の割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～75%</td> <td>74～60%</td> <td>60%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～75%	74～60%	60%未満	B									
A	B	C	D																	
90%以上	89～75%	74～60%	60%未満																	

事務部	<p>安心・安全な学校を維持し、管理を徹底する。</p>	<p>危機管理意識を持ち、危険箇所の早期発見・早期改修に努める。</p> <p>[危険箇所に対する改修率]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89~70%</td> <td>69~50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89~70%	69~50%	50%未満	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体を見通した危険箇所を早期に発見し、対応を心がけた。また、日頃の環境整備により、美化及び危険箇所の早期発見に努めた。 ・大規模改修工事では、安全安心を第一に教育活動が滞ることのないよう連絡調整し無事終了した。関連する工事や物品調達等について、教育庁に予算要求を行い執行した。また、新たな暖房空調設備の運用について策定した。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、情報機器の調達、エアコン運用、必要物品の調達を可能な限り早期に対応を行った。 ・運営費予算執行は、要望を的確に聞き取り、直ちに効果的及び効率的な執行を心がけた。光熱費の高騰で予算が厳しい中、可能な範囲で要望物品等の調達を行った。また、多数の外部講師への謝礼旅費の支払いを滞りなく行った。 ・窓口・電話対応は、親切丁寧、迅速及び正確に行い、円滑な学校運営に努めた。
	A	B	C	D								
	90%以上	89~70%	69~50%	50%未満								
<p>学校経営方針を推進するため各分掌・教科と連携し、効果的な予算執行を行う。</p>	<p>各分掌・教科と連携を密にし、教育的効果のある予算執行を行う。学校経営を推進し本校教育に即した予算計画を立案し、確実に執行する。</p> <p>[教科・分掌の予算執行満足度]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89~70%</td> <td>69~50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89~70%	69~50%	50%未満	B		
A	B	C	D									
90%以上	89~70%	69~50%	50%未満									
<p>丁寧、的確及び迅速な窓口業務・電話対応を行う。</p>	<p>府民との窓口になる対応を丁寧、的確及び迅速に行い、円滑な学校運営に努める。</p>	B										
国語科	<p>主体的・対話的で深い学び (AL) からの授業改善をいっそう推進すべく、指導方法の改善に努める。また、新学習指導要領への対応に取り組むとともに、ICTの授業での有効活用を努める。</p>	<p>教科内での授業研究や、学校外での研修会への参加を積極的に行い、次の事項を推進する。</p> <p>①タブレット等ICT機器の、授業での有効活用 ②新学習指導要領に即した教科指導力の向上 ③観点別評価への対応</p> <p>[研修会等への年間参加回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>20回以上</td> <td>16回以上</td> <td>12回以上</td> <td>8回以下</td> </tr> </table> <p>(R4年度 20回)</p>	A	B	C	D	20回以上	16回以上	12回以上	8回以下	A	<p>ICTを活用する授業についての授業改革は、第1学年の授業でのタブレットの恒常的使用や、研究授業で示したようなアンケート機能の活用など、徐々に進んでいる。他学年については一部の授業や単元で使用するのみで、有効的な活用まではいかなかった。観点別評価については、いわゆる「あり得ない評価」を回避しつつ、考查中心主義からの脱却を図ることができた。ただし、評価するのに長大な時間と手間がかかるのが問題点である。研究会等への参加回数は、昨年度よりも増加し</p>
	A	B	C	D								
20回以上	16回以上	12回以上	8回以下									
<p>生徒の言語文化に対する関心を深め、基本的な語彙力等の定着を図る。</p>	<p>基本的語彙力等の定着を目指して、小テスト等に意欲的に取り組ませる。</p>											

		<p>[漢字・現代文語彙テスト 学年平均点80%以上の学年]</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>3学年</td><td>2学年</td><td>1学年</td><td>なし</td></tr> </table> <p>(R4年度 1年77%、2年78%、3年84%)</p> <p>[古文単語・古典文法テスト 学年平均70%以上の学年]</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>3学年</td><td>2学年</td><td>1学年</td><td>なし</td></tr> </table> <p>(R4年度 1年73%、2年83%、3年85%)</p>	A	B	C	D	3学年	2学年	1学年	なし	A	B	C	D	3学年	2学年	1学年	なし	C	B	<p>たとえば、特定の教員に集中しており、全体としては減少傾向にある。各自が機会を有効に使い、研修に努める必要がある。</p> <p>基本的語彙力等の定着については、生徒の意欲を高めつつ取り組んだが、クラスによって差がついてしまい課題を残した。また、様々な文章や課題に取り組みせることで、生徒の言語文化に対する関心を高め、読解力を向上させることができた。</p>
A	B	C	D																		
3学年	2学年	1学年	なし																		
A	B	C	D																		
3学年	2学年	1学年	なし																		
地歴公民科	<p>進路実現のための学力向上と社会的役割の自覚に向けて、自立学習を確立させ、物事を主体的に考える力の育成に努める。</p>	<p>学習事項の基礎基本を確実に定着させ、生徒の学力の向上に努める。</p> <p>[3年生大学入学共通テスト平均の対全国平均値]</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>+8点以上</td><td>+6点以上</td><td>+4点以上</td><td>+3点未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	+8点以上	+6点以上	+4点以上	+3点未満	A	B	<p>・教科全体の対大学入学共通テスト平均値は+8.24(大学入学共通テスト平均58.2に対し本校66.4であった。各科目においても平均値を上回ることができ、大学入試レベルの学力定着には一定の成果を得た。今後は令和7年度入試(新課程)に向けた授業実践、対策を推進していきたい。</p> <p>・「地域連携プログラム」にて各種取組を実施した。昨年に引き続き、出前高校生議会の開催「アフター大河バトンプロジェクト」や「田舎力甲子園」への出場等、生徒の主体的な活動を活性化することができた。今後も地域との連携をしながら創造力豊かな探究活動を実施していきたい。</p> <p>・各学期ごとに「主体的・対話的で深い学び」及びICTを活用した効果的な指導法の確立に向け、研究授業を実施した。観点別評価のあり方とともに新たな指導方法について研究協議を進めることができた。今後も定期的な教科部会を設定し、意見交流を一層進めていきたい。</p>								
	A	B	C	D																	
+8点以上	+6点以上	+4点以上	+3点未満																		
<p>生徒の学習意欲を高めるため、教科内で連携をとり、各人が「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改に努める。また、観点別評価の実施に伴い、「指導と評価の一体化」を推進する。</p>	<p>「主体的・対話的で深い学び」のための効果的な指導方法の確立に向けて研究授業を実施し、研究協議を行う。</p> <p>[テーマに関する研究授業と研究協議の実施回数]</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>8回以上</td><td>7回</td><td>6回</td><td>5回以下</td></tr> </table> <p>[授業アンケートの中の「先生の教え方に工夫が感じられ、自分自身の理解が深められている」に対する生徒の自己評価の平均]</p> <table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>3.6以上</td><td>3.0~3.5</td><td>2.5~2.9</td><td>2.4以下</td></tr> </table>	A	B	C	D	8回以上	7回	6回	5回以下	A	B	C	D	3.6以上	3.0~3.5	2.5~2.9	2.4以下	B	A		
A	B	C	D																		
8回以上	7回	6回	5回以下																		
A	B	C	D																		
3.6以上	3.0~3.5	2.5~2.9	2.4以下																		

数学科	<p>主体的な態度で粘り強く学習に励む生徒を育成し、希望進路に対応できる学力を養成する。</p>	<p><1年生> 学習状況の把握と丁寧な指導を行い基礎学力の定着を図る。 [全員模試の平均偏差値の差(1月-7月)]</p> <table border="1" data-bbox="786 204 1352 276"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>3以上</td><td>3~0</td><td>0~-3</td><td>-3未満</td></tr> </table> <p>-----</p> <p><2年生> 学習方法を指導することにより、個々の学習スタイルを確立させ、主体的に学習に励む生徒を育てる。 [全員模試の平均偏差値の差(11月-7月)]</p> <table border="1" data-bbox="786 451 1352 523"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>3以上</td><td>3~0</td><td>0~-3</td><td>-3未満</td></tr> </table> <p>-----</p> <p><3年生> 日々の授業に加え、共通テスト対策演習やにじゼミ等により、希望進路実現に必要な学力を充実させる。 [大学入学共通テスト 数学I A 対全国平均]</p> <table border="1" data-bbox="786 699 1352 770"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>4点以上</td><td>4~2点</td><td>2~0点</td><td>0点未満</td></tr> </table>	A	B	C	D	3以上	3~0	0~-3	-3未満	A	B	C	D	3以上	3~0	0~-3	-3未満	A	B	C	D	4点以上	4~2点	2~0点	0点未満	B C A	<p><1年生> 模試の平均偏差値の差(1月-7月)は+0.3であった。ノート提出や小テストを実施し、学習習慣を定着させることが出来た。ICT活用に関しては、問題やその解答の配信、グラフ作成アプリの使用程度にとどまっている。</p> <p><2年生> 模試の平均偏差値の差(11月-7月)は-2.1であり、目標には届かなかった。学習習慣が身に付き、主体的に学習を進めて力を伸ばしている生徒もいる一方で、数学を苦手とし、学習スタイルが確立できていない生徒もいた。生徒個人の力を確認しながら柔軟に対応していく必要がある。</p> <p><3年生> 大学入学共通テスト数学I Aの本校の平均点は66.3点であり、対全国平均を10点以上も上回ることができた。(全国平均55.65)また、授業での2次対策も充実させることができた。</p>
A	B	C	D																									
3以上	3~0	0~-3	-3未満																									
A	B	C	D																									
3以上	3~0	0~-3	-3未満																									
A	B	C	D																									
4点以上	4~2点	2~0点	0点未満																									
	<p>学習意欲を高める指導の工夫と改善を推進する。</p>	<p>ICTの活用についての交流を図る。</p> <table border="1" data-bbox="786 834 1352 906"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>図れた</td><td>まあまあ図れた</td><td>あまり図れなかった</td><td>図れなかった</td></tr> </table>	A	B	C	D	図れた	まあまあ図れた	あまり図れなかった	図れなかった	B	<p><指導の工夫> 日々、指導の工夫改善に努めている。教科の特性もありICTの活用場面と活用法は現状では限られている。指導内容が減らない中、1・2年生の単位数が減り非常に厳しい状況である。</p>																
A	B	C	D																									
図れた	まあまあ図れた	あまり図れなかった	図れなかった																									
理科	<p>各生徒の希望進路の実現に向け、基礎学力の定着並びに思考力、判断力、表現力の育成に努める。</p>	<p>基礎学力を確実に定着させ、生徒全員の進路保障に努める(3年生)。また積極的な授業改善や個に応じた指導内容の工夫を行い、希望進路に応じた学力の充実に努める(1・2年生)。 [大学入学共通テストの対全国平均点]</p> <table border="1" data-bbox="786 1289 1352 1361"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>9点以上</td><td>5点以上</td><td>3点以上</td><td>3点未満</td></tr> </table> <p>1年生においては教科内だけでなく他教科とも実践事例や情報を共有し、学習用端末の活用</p>	A	B	C	D	9点以上	5点以上	3点以上	3点未満	B B	<p>・日々の授業における取組に加え、個別添削指導や放課後講習会、定期考査前の学習会などを行い、基礎学力の定着及び希望進路に応じた学力伸長を図った。</p> <p>・コロナ禍により制限されていた実験も感染予防の工夫をしながら実施し、概ねコロナ前の実施回数に近づけることができた。</p>																
A	B	C	D																									
9点以上	5点以上	3点以上	3点未満																									

		<p>を推進する。</p> <p>2・3年生においては来年度以降の導入に向けて活用の準備をすすめる。</p> <p>[1年生で学習用端末を活用した授業の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60%以上</td> <td>40%以上</td> <td>20%以上</td> <td>20%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	60%以上	40%以上	20%以上	20%未満	A		<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストの対全国平均点(専門3科目の単純平均)は+5.0点(昨年度は5.4点)であった。 ・1年生化学基礎における学習用端末を活用した授業割合(教材提示のみの活用の仕方を含む)の6クラス平均は約62%であった。また、2,3年生の授業においても教員用端末に限定されるものの端末の活用が進んでいる状況が見られた。 ・「科学の甲子園京都府予選会」では、これまでの中で一番の好成績を修めた。
A	B	C	D										
60%以上	40%以上	20%以上	20%未満										
	<p>「スーパーサイエンスネットワーク京都」指定校としての取組を生かした本校独自の科学研究プログラムを推進する。</p>	<p>外部機関主催の科学コンテストやフェスティバル、校内における特別講義や各種研究活動等への参加協力体制を組む。</p> <p>[各事業に対する平均生徒満足度(4段階)]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3.7以上</td> <td>3.4以上</td> <td>3.1以上</td> <td>3.1未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	3.7以上	3.4以上	3.1以上	3.1未満	B		
A	B	C	D										
3.7以上	3.4以上	3.1以上	3.1未満										
保健体育科	<p><体力の向上を図る></p> <p>本校生徒の体力は、京都府平均と比較しても、筋力・柔軟性について劣る傾向があるため、体育授業及び体育的行事により体力の向上を目指す。</p>	<p>年間を通じた体力向上をねらいとし、補強運動やトレーニング的な動作及びストレッチや柔軟運動を意識した授業を推進する。</p> <p>[各学期の授業時において、上体起こしを測定(1・2年男女)し、4月のスポーツテスト時から上昇した人数割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>50%以上</td> <td>49~40%</td> <td>39~30%</td> <td>29%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	50%以上	49~40%	39~30%	29%以下	A		<p>授業最初や最後に、各種目に関連する体力向上の動作を必ず実施した。二学期には持久走を実施することで、各自の状況に応じて体力の向上をはかることができた。</p> <p>(51%)</p>
A	B	C	D										
50%以上	49~40%	39~30%	29%以下										
	<p><新学習指導要領に即した授業改善></p> <p>積極的にICTの活用するなど、効果的な授業方法を検討し、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の育成を目指す。</p>	<p>それぞれが行った改善点について科内で共有し、目指す力の育成に効果的な授業方法について検討する。[教科会議等で授業改善について検討した回数(1年間)]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	5回以上	4回	3回	2回以下	C	B	<p>国や府からの連絡事項については共有するとともに、研究授業などにおいて積極的にタブレットを活用し、教科内で研修に努めた。(18回)</p>
A	B	C	D										
5回以上	4回	3回	2回以下										

	<p><運動部活動の活性化> 部活動を通して自己管理能力の育成を図るとともに、責任感、連帯感の涵養、好ましい人間関係の育成し、自己肯定感を高める。</p>	<p>福知山高校運動部としての意識を高め、日常生活において挨拶や礼儀等を身に付けるなど、他の模範となる質の高い集団となるよう働きかける。 [年間運動部集会の回数]</p> <table border="1" data-bbox="797 288 1370 416"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>31回以上</td> <td>21～30回</td> <td>11～20回</td> <td>10回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	31回以上	21～30回	11～20回	10回以下	C	<p>両丹総体、学期末、学校祭前など、折りに触れて実施した。特に学期末においては活動場所の清掃も併せて実施、安全な環境を整えるきっかけとなった。(3回)</p>																
A	B	C	D																									
31回以上	21～30回	11～20回	10回以下																									
芸術科	<p>芸術に関わる幅広い活動を通し、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てると共に、感性を高め芸術の諸能力や技能を伸ばし、芸術文化に対する理解を深め、豊かな情操を養う</p>	<p><音楽> 音楽の幅広い活動を通して生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽・音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。 [授業アンケートで「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合]</p> <table border="1" data-bbox="786 655 1352 727"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～60%</td> <td>59～40%</td> <td>39%以下</td> </tr> </tbody> </table> <p><美術> 鑑賞・表現の授業改善を行い、見方や感じ方を深め生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。 [表現の授業において、ICTを活用した授業改善を行った回数]</p> <table border="1" data-bbox="786 943 1352 1015"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10回以上</td> <td>9～7回</td> <td>6～3回</td> <td>2回以下</td> </tr> </tbody> </table> <p><書道> 主体的・対話的で深い学びの中から、本校が目指す生徒像を目標に、生徒の育成が推進できるよう授業改善に努める。授業内容と指導方法の改善により生徒の達成感を高める取組を推進する。 [授業アンケートより、「分かった」「できた」と思うことがよくある生徒の割合 (回答4)]</p> <table border="1" data-bbox="786 1294 1352 1366"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～60%</td> <td>59～40%</td> <td>39%以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～40%	39%以下	A	B	C	D	10回以上	9～7回	6～3回	2回以下	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～40%	39%以下	B B B	<p><音楽> 歌唱・器楽では幅広い活動を行うことができたが、鑑賞・創作活動にはあまり時間をかけることができなかった。1年間の授業時数を考え、バランスの良い授業作りを行わなければならない。授業アンケートの肯定的な評価の割合は80%を超えていたが、本校では高度な活動が可能であるので、更に深い深い学びができるように授業内容を工夫していきたい。</p> <p><美術> 今年度美術室に電子黒板が入り、表現授業で制作途中の生徒にICTを活用し、説明することが可能になり、各学年とも制作スタート時の説明にICT機材を活用することができた。制作中の説明にも活用できるよう取り組んでいきたい。</p> <p><書道> グループワークや鑑賞の時間を設け、自ら気づくこと、考えることを軸に授業を運営することができた。また、個別指導により表現技術の向上に努め、作品制作の取り組みを充実した内容で行うことができた。</p>
A	B	C	D																									
80%以上	79～60%	59～40%	39%以下																									
A	B	C	D																									
10回以上	9～7回	6～3回	2回以下																									
A	B	C	D																									
80%以上	79～60%	59～40%	39%以下																									

英語科	<p>多様かつハイレベルな進路希望に対応できる基礎から応用までの幅広い学力を養成する。</p>	<p>家庭学習指導の徹底、課題への取組、模試の復習を通じて、学力の向上を図る。 [3年生共通テスト平均点の対全国平均値] *リーディング100点+リスニング100点の計200点満点</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>+16点以上</td> <td>+15～8点</td> <td>+7～0点</td> <td>マイナス</td> </tr> </table>	A	B	C	D	+16点以上	+15～8点	+7～0点	マイナス	A	<ul style="list-style-type: none"> ・共通テストの全国平均(大学入試センター中間集計)は、リーディングが53.82点(100点満点)、リスニングが62.35点(100点満点)で、本校の平均はリーディングが66.5点、リスニングが71.2点であった。よって、リーディングとリスニングの合計で本校の平均は全国平均を21.53点上回るという結果となった。(本校平均点137.70点/全国平均点116.17点) ・新学習指導要領に関して教科内で研修会を開き、指導や評価の方法について研修を深めることができた。また、外部での各種研修会での内容を共有することにより、教科全体で指導力の向上に向けて取り組んだ。さらに、実用英語技能検定やGTECに向けて、4技能5領域の指導方法を研修することができた。(研修回数4回)
	A	B	C	D								
+16点以上	+15～8点	+7～0点	マイナス									
<p>「主体的、対話的で深い学び」の視点に立ち、生徒の確かな学力を育むための授業改善に取り組む。</p>	<p>新学習指導要領に即した授業や評価を実践し、ICT機器を効果的に利用して、体系的に指導をするため、教科内で一致して研修を進める。 [新学習指導要領やICT活用に関する教科内研修の回数]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>6回以上</td> <td>5～4回</td> <td>3～2回</td> <td>1回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6回以上	5～4回	3～2回	1回以下	B		
A	B	C	D									
6回以上	5～4回	3～2回	1回以下									
家庭科	<p>○実践的・体験的な学習活動を通して、主体的に生活を創造する資質・能力を育成する指導の工夫改善を図る。</p>	<p>・授業ごとのねらいを明確にし、実習等の実践的・体験的な活動や問題解決的な学習の充実を図るとともに5K力に基づいた振り返りを行う。 [5K力に基づいた振り返りの実施回数(割合)]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～60%</td> <td>59～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～50%	49%以下	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎時間5K力に基づいた振り返りを実施できた。2学期からは、紙ではなくタブレットを利用し振り返りを実施することができ、確認の手間も紙の消費も軽減できた。また、振り返りに5Kだけでなく、SDGsとの関わりについても考えさせることができた。 ・調理実習の実施やオンラインによる赤ちゃんふれあい体験、妊婦体験や手遊び、おもちゃ作りなど体験的な学習を行い主体的な学びにつなげることができた。子育て学習プログラムの実施を通して、多くの生徒が、子どもや子育てに興味・関心がわいたと答え、自分が子どもをもつ・もたないにかかわらず、社会全体で子育てをサポートしていく重要性を認識できた。
		A	B	C	D							
80%以上	79～60%	59～50%	49%以下									
<p>・「子育て学習プログラム」の実施を通して生徒の出産・子育て・人生設計について生徒の変容が見られる授業の工夫を行う。 [意識の変容が見られたと解答した生徒(割合)]</p> <table border="1"> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～60%</td> <td>59～50%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～60%	59～50%	49%以下	A			
A	B	C	D									
80%以上	79～60%	59～50%	49%以下									

					・妊娠・出産に関わる講演会では、ドクターから医学的見地に基づくお話をしていただき、妊娠・出産は女性だけでなく、男性も自分の体を管理していくことの重要性に気づくことができた。								
情報科	<p>情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度、課題や目的に応じた情報手段の適切な活用ができる能力を養うとともに、受け手の状況などを踏まえた発信、伝達社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解させる。</p> <p>また、大学入学共通テストの教科「情報」への対応について教科研修を実施する。</p>	<p><1年生> 情報Ⅰ</p> <p>(1)情報の活用と表現 ・情報の特徴とメディアの意味、デジタル化された情報を統合的に扱えること、および情報の表現と伝達の方法を習得させる。</p> <p>(2)情報通信ネットワークとコミュニケーション ・コミュニケーション伝達の手段の発達、ネットワークの仕組みと活用方法を理解させる。</p> <p>(3)情報社会の課題と情報モラル ・情報化が社会に及ぼす影響、情報セキュリティの確保、情報社会における法と個人の責任を理解させる。</p> <p>(4)望ましい情報社会の構築 ・社会における情報システム、情報システムと人間、情報社会における問題の解決について考えさせる。</p> <p>(5)プログラミングの原理と手法 ・プログラミングを用いてアルゴリズムを理解する。</p> <p>[情報の活用について理解できたと回答した生徒の割合]</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70～79%</td> <td>60～69%</td> <td>59%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70～79%	60～69%	59%以下	B	B	<p>情報社会の基礎知識や機器操作、情報発信におけるモラルの習熟を中心に学習し、多くの生徒がしっかりと理解をした。今後、生徒たちが、実生活の中で、学習内容を活かした行動等ができることを期待したい。</p> <p>また、表計算ソフト「Excel」を用いて基本的な関数を学習し、プログラミングを活用できるように、実技実習を積極的におこなった。2月に実施した生徒アンケートではスキルを習得したと回答した生徒が70.3%であった。</p> <p>PCで文書作成や「Excel」、プログラミング等を扱うにあたり、高校入学までの経験差が生徒間（学校間）で大きく、授業の進め方を工夫する必要がある。</p> <p>情報社会の課題と情報モラルにおいて、情報社会の基礎知識や機器操作、情報発信におけるモラル習熟を中心に学習した。また、具体的な情報伝達の手段や統合的な情報集約方法を指導することができた。</p>
A	B	C	D										
80%以上	70～79%	60～69%	59%以下										

<p>学校運営協議会 委員による評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、行事などで工夫した取組を積極的に行っており、一定の成果をあげていることは評価に値する。 ・学校評価アンケート(保護者・生徒)では、ほとんどの項目で高く評価されているが中高連携に関する満足度が低い評価となっている。また、選抜の志願者数の減少に対して手を打つ必要がある。 ・進学等で府外に出たとしてもUターン等で将来地域活性化を進めたり、離れた地域からでも地域を支えたりしてくれるような人材を育てていくことが重要である。 ・福知山高校は中高という縦のつながりの強みがある。一つの学校として様々な行事や部活動等を合同で行ったり、中高の生徒が関りを持ち、連携を進めるような工夫が必要である。 ・中高のコラボについて生徒と保護者、教職員との意識のズレがあるかもしれない。その解消に向けて、生徒に議論の場を作ったり生徒会でコラボを試みたり、生徒自身が動いてみて、ニーズやミスマッチがないのかを検証してみてもよい。 ・中高のつながりは教職員が意図的に仕組みなくとも、それぞれの生徒の動線を重ねるだけでも強まるはずである。 ・キャリア教育の観点からオープンファクトリーなど地元企業で行われているものづくりのプロセスを見せる機会を持つことは重要である。ものづくりに対する各社の思いを感じたり、その場面に立ち会うことで思いを共感したりすることができ、地域のよさも感じることができる。 ・広報についての発信は、教職員だけが行うのではなく、生徒が記事をかいたり写真を取ったりして主体的に発信すると、違った観点から受け手側にアピールできるはずである。
----------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<p>次年度に向けた 改善の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育の更なる推進のため、中高間及び分掌間の連携を図るとともに、中高一体となった校内組織を確立する。また、中高のコラボについて様々な可能性を探り、中高一貫校の良さを生かした教育活動を進めていく。 ・学校組織の改善と見直しの視点から学校全体の教育力向上に向け、教職員の資質・能力の向上を通じて業務改善と効率化を図っていく。 ・ICTを効果的に活用した授業改善を推進していくとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った教育活動を展開していく。 ・総合的な探求の時間「みらい学・みらい考」等を通じて、社会や地域の課題解決に向けた探求を進めたり、サイエンスに関する探求をより深めることで、地域や社会に貢献できる素養を育成していく。 ・魅力ある教育活動を実施していくとともに、その良さを様々な方法で効果的に発信することで生徒募集につなげていく。 ・適正な学校運営及び学校防災や感染症対応など危機管理体制を確立し、安心・安全な学校作りを推進していく。 ・家庭・地域・関係機関との連携強化及び地域連携活動等の活発化を通じて、相互との信頼関係を築いていく。
---------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------